

活動実績報告書

平成26年4月18日

登録番号 20130617

氏名 田中 康夫

1. 活動状況

平成24年 4月 ~ 現在

○活動の概要

地域林業の再生に向けた民・県・国連携の取組み

山梨県身延町・南部町境の地域は、民有林、県有林、国有林が混在しており、事業計画の調整が図られないまま個々に事業が実施されており、効率的な施業が進んでいない状況であった。業務の課題は、関係者の連携体制構築による効率的な施業の推進であり、県下に連携の事例がなく関係者の連携への認識が低いのが問題であった。

私は、関係者のモチベーションを高めるため、連携による地域の合理的な路網計画を具体的な形で提示するとともに、合同での路線踏査などを企画したほか、連携の検討会において関係者の相互理解を促進させ、連携についての合意形成を図り課題の解決を行った。

○当該活動を挙げた理由

当該業務は、地域の林業・木材産業が抱える問題を解決するための連携の取組みであり、計画的な森林整備の推進により市町村森林整備計画の達成にもつながるものであるため。

また、取組みには国有林の准フォレスター及び森林施業プランナーとの連携や関係者の合意形成などが必要であり森林総合監理士の業務に関連していると考えたため。

○当該活動における、あなたの立場と役割

地域の森林・林業再生を担う准フォレスターとして中立的な立場で関係者の連絡調整や意見集約を行い、事業推進の役割を担った。

○活動上発生した問題点と課題及びそれへの具体的対応策

関係者の連携体制構築による効率的な施業の推進が課題であった。県下に連携の事例がなく、連携に対して関係者の認識が低いのが問題であった。

関係者に事前の個別ヒアリングを実施して情報収集を行い、その結果を考慮する中で効率的な路網計画等を作成し、連携の具体的なメリットとして関係者に提示などを行い関係者の連携へのモチベーションを高めた。その後、国有林の准フォレスターと連携・協力する中で連携に向けた検討会を立ち上げた。また、連携エリア内での森林経営計画策定に向けた共同での計画作成や森林作業道の計画などについて指導を行った。

○活動による成果で残された課題及び今後の改善方策

活動の成果として①路網の共同計画と利用②林地残材の利活用・木材共販所への出材時期の連絡調整③供用土場の設置などを目的とした身延・南部地域森林整備推進協定が平成25年3月に2つの森林組合、(独)森林総合研究所森林農地整備センター、山梨県、国(関東森林管理局)の5者により締結された。

現在、協定区域内で森林経営計画が策定されたほか、連携による路網の開設が開始されており、今後、協定区域から地域の共販所への計画的な出材が期待されるため効率的な搬出方法や、材の新たな販路の検討などを進めていく。

2. 研修の受講状況

研修名 日本型フォレスター育成研修（准フォレスター研修） 平成 23 年 9. 11 月
(実施主体) 林野庁

研修名 日本型フォレスター育成研修（通信研修） 平成 23 年 11 月
(実施主体) 林野庁

研修名 日本型フォレスター育成研修（集合研修） 平成 24 年 2 月
(実施主体) 林野庁

3. その他の自己の能力・維持向上のための活動状況

○森林総合監理士(あるいは森林総合監理士に関連していると考えられる)としての活動等の雑誌、広報誌等への投稿

- ・ 雑誌投稿： 森林計画研究会会報 平成 25 年 1 月
題名： 持続可能な森林経営をめざして ～准フォレスターの活動事例～

○森林総合監理士(あるいは森林総合監理士に関連していると考えられる)としての活動等の研究会、シンポジウム等での発表

- ・ 発表： 林業普及指導員関東・山梨ブロックシンポジウム 平成 24 年 10 月
題名： 地域を活かす林建協働への取り組み
- ・ 講演： 峡南の歴史と文化を学ぶ会 平成 24 年 10 月
題名： 峡南地域の森林・林業の現状

○各種研究会、シンポジウム発表等への指導

- ・ 富士川林業振興会の活動指導（優良林審査等） 平成 23 年～現在

○森林総合監理士(あるいは森林総合監理士に関連していると考えられる)としての活動に関連する各種研修への参加

- ・ 森林施業プランナー実践力向上対策事業ステップアップ研修
実施主体：全国森林組合連合会 平成 24 年 9 月
- ・ 流域管理（民・国連携強化）・地域材供給システム構築研修
実施主体：林野庁 平成 24 年 10 月
- ・ 林業普及指導員全国シンポジウム
実施主体：全国林業普及指導職員協議会 平成 25 年 12 月